

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年5月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油出荷量は前年同月に比べかなり増加した。今年の前半がやや低迷していただけに今後に期待出来る。
	パン・菓子製造業	GWの影響により売上が上昇した。
織物業	織物業	絹分野では海外激安製品の圧迫が更に強まり多品種・極少ロットの発注に終始し、生糸の国際相場が一部、投資家の投機の対象となり、実需とはかけ離れて乱高下し、先が見えず。加えて精練等の加工に必要な燃料、油類の高騰により、和装、洋装いずれも原料・加工コスト高、製品安の状態に陥り、過去幾多の困難にも増して、厳しい状況で推移している。
	ねん糸製造業	車輛関係や産業資材の需要が目立ち始めている。ただ、自動車メーカーではその要求度が厳しく、「軽量、環境、高機能、快適性」と何よりの低コストであり、業界にとっては一部追い風もある。しかし、地場小松では自主廃業といったところも増えている。全体のムードは高揚しつつあるが、産業資材並びに高機能ニフォーム及び不織布等が目立ち、他業界の追い上げがここに来て陽を浴びているようである。
	その他の織物業	重油価格が上昇し、収支に悪影響を与えている。大手集産地問屋が沈滞気味である。
	ニット生地製造業	業況は概ね堅調に推移している。
	その他の織物業	5月度は昨年同期月に比べ15%の売上減となった。年初来、売上減少が続いているが、現時点では回復の傾向が見られない。当面この厳しい状況が継続するものと思われる。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業
窯業・土石製品	製材業、木製品製造業	5月度はほぼ順当に需要が戻ったようである。
	砕石製造業	5月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比生コン向け出荷が20.4%、アスファルト合材向け出荷量が5.6%増となり、全体出荷量では18.5%の増加となった。特に空港滑走路工事関連で南加賀地区生コンへの出荷が52.8%増となったのが好転の一因である。
	陶磁器・同関連製品製造業	組合員数の減少化が目立ち、組合運営にも支障をきたしている一面も見受けられる。個々の対応も必要であるが、業界全体の今後を見据えた特別委員会を立ち上げ、様々な角度から検討を始める。
鉄鋼・金属	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷状況は、前年同月比106.9%とプラスの出荷量となった。地区別では、南加賀、鶴来・白峰、金沢、羽咋・鹿島地区がプラスとなり、七尾、能登地区はマイナスで推移した。官公需・民需では、官公需は相変わらず厳しく前年同月比85.2%、民需は活発に推移して前年同月比146.4%となった。石川県は9ヶ月ぶりにプラス出荷となった。今後に期待したい。
	一般機械器具製造業	落ち着いた中でも団地全体は活況である。
	鉄素形材製造業	好況は持続しているものの、公共事業関連の受注は停滞気味であり、さらに鋼材を含む原材料の値上げ、原油価格の高騰と景気に少し足踏み状態が見られてきている。
	鉄素形材製造業	景況は順調に推移しているものと思われる反面、企業間格差が一段と進んでいる。昨年来の石油価格等の高騰は経営を圧迫する事が予想され、先行きは決して楽観視出来ない。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年5月分)

一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	K社に代表される建機、自動車産業の好景気に反映される工作機械のある意味ダブル期以上の好況さが今後どのくらい続くのだろうか。県内メーカーや下請企業全般にわたって今一番の心配の種ではなからうか。
	繊維機械製造業	鉄工、機械、電機業界は好況が続いている。好調な組合員に聞いてみると昨年から景気回復の過程で、得意先が変わってきているというところが多いとの事である。
	プレス、工作機械	機械金属業界全体は大きな変化も無く依然として好調である。ただ鋼材の価格の高止まり、アルミ・銅の値上げ、金利の先高感、原油の高騰など不安要素があり、一部には設備投資に二の足を踏まざるを得ないとの声も聞こえてくる。一方、工作機械業界は設備の増設も終了し、さらなる納期短縮を迫られている。
	機械金属、機械器具の製造	高水準の操業を維持している。人員不足は派遣社員で補っている状況である。人員が増えた事から駐車場の確保に苦労している。
その他の製造業	漆器製造業	5月期の木製カタログ販売額は前年対比微増であったが、主力の近代漆器の落ち込みが大きく産地全体としては10%弱の落ち込みと思われる。5月は春商戦も終わり、秋冬に向けた6月展示会のための新商品作りの期間であるが、注目すべき新商品は例年以上に少なく、木製漆器の一部を除けば積極的な商品開発や設備投資を行う企業はごく少数で夏以降の先行きは全く不透明である。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	絹織物に関して(和洋問わず)原料価格の下落から、売上高等が減少している模様である。異業種との交流も思うように進んでいない。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高がようやく上がってきた。今後はどのように推移するか予想したいが、増加傾向が続く事を期待したい。
	一般機械器具卸売業	5月は稼働日数が少なく、電線の値上がりや石油価格の高騰など先行き見込みがたないなど不安材料が多すぎる状況である。さらに4月には照明器具等のメーカーが値上げを実施したことから大変な状況となっている。いずれにしても利益確保が難しくなっている。
小売業	燃料小売業	5月は仕入価格が4~5円大幅に値上げされた。閉鎖していた給油所に元売系・商社系の給油所がオープンし局地的に市況が低迷した。ゴールデンウィーク以後需要は減退している。
	機械器具小売業	5月の連休に入り、好天にも恵まれお客様の外出時間が長くなっただけ家電製品購入商談時間が無くなり売上も減少した。5月中旬以降ワールドカップ開催や地上デジタル放送開始間近に迫ったこともあり、大型液晶・PDPテレビの引き合いも増加した。5月トータルで見ると地域店は昨年並みであったと思われる。6月以降の商談に期待がかかる。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	連休中(5連休)は天候に恵まれたが、逆に来店客数は伸びなかった。春物は一応全て処分し、初夏物に販売重視した結果、売上高は前年に比べ若干アップした。(前年比2.2%増)
	鮮魚小売業	5月は大型連休もあり、商況としては余り良い状況ではなかった。そのような状況から仕入を控える動きがあった。さらに天候不良も重なり地元の魚の入荷量の少ない日もあった。原因として燃料の高騰による影響から出漁を見合わせているものと思われる。
	他に分類されない その他の小売業	昨年に比べ今年のゴールデンウィークは観光客数も増加し、売上も増加した。
	百貨店・総合スーパー	5月の売上は予算比98.7%、前年比104.7%と前年を上回った形になっているが、内容的には呉服店舗の店外催事計上分がある為、実質前年比96.4%と前年割れであった。部門別では、ファッション91.2%、服飾94.5%、生雑97.8%、食品99.0%、飲食98.3%、サービス117.2%であった。前年比良い店舗と悪い店舗との差が大きい月であった。
	米穀類小売業	5月から端境期に入り、供給不足で相場の上昇を見込んでいたが、前年同月比98%と低い。豊作過剰米の区分出荷・隔離と政府対策の効果が見えない。一般消費量も若干伸びたようであるが、目立った量ではない。今後に期待したい。

非
製

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年5月分)

造業	商店街	近江町市場	飲食店はゴールデンウィーク中は盛況であったが、その他小売業は売上高減少傾向にある。
		尾張町商店街	5月は連休をはさんで、実営業日数が少なく、天候も五月晴れに恵まれず、街路を歩く人々も少なく、プラス要素があまり見当たらない月であった。固定客がなければ苦戦を強いられるであろうが、お陰様で何とかしのいだといえよう。
	サービス業	旅館、ホテル	5月の連休の前半は市内の各施設はほぼ満室の状態であったが、後半はあまり良い状態ではなかった。しかし、学会やスポーツ団体等が昨年より増加しており、やや上向き状態になってきている。
		旅館、ホテル	5月度は昨年よりプラスで推移しているが、全体的には低レベルの状態だった。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比3.5%増、前月比4.5%増となった。新規検査状況は、前年同月比1.8%減、前月比5.9%減となった。
		旅館、ホテル	5月は既存旅館、新規開業旅館ともに宿泊人員は増加した。売上は全体的に増加傾向にあるものの、消費額は一次、二次消費ともに低下にある。景気の回復の実感が感じられない。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比44.5%減となった。内訳は民間土木10.5%増、民間建築61.8%減となり民間全体では53.9%減となった。公共土木は22.0%減、公共建築は38.4%増となり公共全体では20.3%減となった。前年度は地元の有力企業が2件倒産したが、本年度は前年度以上に厳しい状況である。
		一般土木建築工事業	公共工事の大幅な縮減や需要の停滞、大手企業の進出による競争も激しく続いている上、人件費以外の経費の増加や単価下落等により、無駄を省いても収益が上がらない状況である。原油価格高騰に伴う資材単価の上昇が悪化の要因と思われる。
		板金・金物工事業	営業力のある企業が次第に業績を伸ばしつつある。従来の顧客に依存している仕事は来ない。組合として時代に対応した経営を指導すべきと考えている。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	軽油価格がまた値上げされた。6月は据置きと予想されているが、運賃の価格転嫁が進まず、相変わらず厳しい状況が続いている。
		一般乗用旅客自動車運送業	春から夏にかけての観光シーズンに入っているが、タクシー輸送回数を見ても依然として低迷状態が続いている。全事業者とも前年並み、もしくは下回るような概況にある。このような状態の中での燃料の値上げはこの先の業界展望を一層厳しいものにしている。
		一般貨物自動車運送業	売上は増加傾向にあるものの、取引条件の改善はなかなか進行せず、我慢も限度である。特に長距離ほど不利な様子。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等